

愛知県・知多半島エリア

知多半島エリアでは23のグループが28か所でEM団子25,500個 活性液18,000リットルを投入

伊勢湾と三河湾の中に突き出たように位置している知多半島では、EM活動が非常に熱心に行われています。推進する「湾・ワン・市民塾(知多の自然を良くする会)」の名前には伊勢湾と三河湾を結ぶという意味合いも込められており、知多半島を取り巻く海の生物環境は確実に豊かになっています。



【阿久比町・町役場前】「阿久比くらしの会」がEM団子2000個を投入。



【武豊市・堀川～三河湾】「武豊エコクラブ」がEM団子4000個、EM活性液1トンを投入。



【三河湾・篠島】「EMアイランド」が中心となって、各家庭へ活性液を配布し、海への投入を実施。



熊野大泊でのEM団子投入は「熊野大泊地区地域づくり協議会」によるEM団子投入

EM団子とEM活性液投入エリア

全国一斉EMだんご・EM活性液投入のきっかけとなったのは、昨年9月19日に開催された「伊勢湾・三河湾浄化大作戦」でした。今年は熊野灘や名古屋市でもイベントを開催するなどパワーアップ!

愛知県・三河エリア

三河エリアでは29のグループが31か所でEM団子3,800個 活性液77,425リットルを投入

三河湾浄化市民塾の活動は平成13年に誕生して以来、ひとりひとりが自己責任で続けて、三河エリアから知多半島を中心とした「湾・ワン・市民塾」の活動へ、そして名古屋市周辺エリアの堀川・新川の活動へと広がりました。ひとりひとりの活動は目立たなくとも、その成果は確実に着々と三河湾の浄化へと結実しています。



【西尾市みどり川】みどり川クリーン大作戦は市民500名が参加して、みどり川の清掃を行った後、西尾小学校の4年生110人が作ったEM団子(3,000個)を投入。



【西尾市二ノ沢川】西尾ロータリークラブが参加して二ノ沢川の清掃後、EM活性液やEM団子を投入。

伊勢湾・熊野灘エリア

三重県では68のグループが29か所でEM団子139,220個 活性液16,460リットルを投入

「EMわくわくネット三重」などが中心となって、三重県四日市(四日市港および阿瀬知川)、津(贄崎海岸)、鈴鹿市(白子漁港)に加え、熊野灘地区にある尾鷲市(北川)のグループも参加し一斉投入を行いました。



【メイン会場・四日市ドーム横】NPO法人イーエム市民広場を中心に約300人が、市民団体や環境学習に取り組む市内の児童生徒も参加して作ったEM団子・約28000個を力いっぱい遠くへと投げつけていました。この日は気温も高く、子供たちも汗だくでしたが、豊かな伊勢湾を守るために頑張りました。

【四日市市・阿瀬知川】

メイン会場での投入に先立ち、同市の浜田地区を流れる阿瀬知川では「阿瀬知川を美しくする会」が流域の7か所でEM団子4600個、EM活性液1800リットルを投入しました。同会は11年前から地道な活動を続け、近年は都市部の住宅街でありながらアユの姿も確認されたことで新聞にも取り上げられ、多くの見学者が訪れています。今後は蛍の飛ぶ川をめざし、さらなる活動が続いています。



【津市・贄崎海岸】

約300名がEM団子25000個を投入。始球式では特製のEMセラミックスが練り込まれた特大サイズのEM団子も登場しました!



【鈴鹿市・白子漁港突堤】

今回のイベントでは明生小学校、白子小学校の子どもたちがEM団子づくりに協力。海の浄化では鈴鹿市漁業協同組合が協力しており、漁業関係者からは、いいアサリがとれるという声も聞かれています。

名古屋市(堀川)・周辺エリア

名古屋市・尾張地区では8のグループが10か所でEM団子8,100個 活性液10,900リットルを投入

名古屋市では、「堀川EMクラブ」「新川をよみがえらせる会」をはじめとする浄化活動グループや、名古屋市の社会実験の一環として市民によって結成された「堀川1000人調査隊」など、約220名が集合。河村たかし名古屋市長をゲストに、趣向を凝らしたイベントが繰り広げられ、活動にも一層のはずみがつきました。

【名古屋市熱田区・宮の渡し公園】

会場は、堀川の下流域で、かつて東海道五十三次の熱田宿から桑名宿を船で結んだ「七里の渡し」があった歴史的な場所。炎天下のもと「堀川をきれいにしよみやあ!」と市長の掛け声で投入開始。その奮闘ぶりはテレビや新聞でも報道されました。



▲堀川 400年前、名古屋城築城のための物資運搬水路として開削された全長16kmの一級河川。名古屋の中心部を流れる街のシンボリックな川ですが、生活排水などによる汚染が深刻となり、再生に向けさまざまなグループが調査・観測や浄化活動を行っています。



名古屋市長 河村たかしさん
川の再生「堀川ビッグバン」に力を入れている名古屋市。「いろいろな人の想いをのせて川は遥か昔から流れ続けています。この先1000年もきれいな川が続くよう、みなさんにもぜひ頑張ってもらいたいと思います。」



堀川EMクラブ代表 宇佐美亮吉さん
昨年11月から堀川にEMのテスト投入を開始し、汚泥や悪臭の改善状態を継続的に観測中。「堀川は名古屋の歴史と文化をはぐくんできた母なる川。川を中心としたまちづくりという観点からもEMの効果に期待しています。」



新川をよみがえらせる会代表 加納祐一郎さん
昨年10月から、名古屋北西部の新川で地域の方々やEMによる浄化活動をスタート。「先日はなんと新川にスナメリが来たんですよ。夢はアユが戻った新川で「鵜飼い」!今回のイベントもメンバーにとっても励みになると思いますね。」